

2 トリコデルマ菌によるピーマン白絹病の防除

背景

ピーマン白絹病は、近年、県北部地域で多発生し、登録薬剤もなく、防除対策に苦慮している。これまでにダイズやネギの白絹病で防除効果が認められているトリコデルマ菌 (*Trichoderma harzianum*) を用い、発病抑制効果を検討した。

内容

出石郡出石町のピーマン栽培ほ場で、育苗培土で増量したトリコデルマ粒剤（大日本インキ化学工業（株）より分譲）を株元に、約10口間隔で2回施用した。1回目の施用量は株当たり200ml（培土1ℓに対しトリコデルマ菌30g混和）、2回目は株当たり100ml（培土1ℓに対しトリコデルマ菌60g混和）とした。処理時期は1999年6月8日と18日、6月18日と28日、6月28日と7月5日の3区で、各区とも25株を供試し、2反復した。発病調査は8月9日、20日、30日に行い、供試した全株について発病の有無を観察した。

無処理での発病は8月中旬から急激に増加し、甚発生条件下での試験となった。その結果、トリコデルマ菌の施用区全てで防除効果は認められたが、6月18日と28日の処理区が低い発病株率で推移し、優れた防除効果を示した（表）。

今後の方針

防除効果の持続性や1回施用での施用適期や防除効果などの検討を行い、実用化に向けての試験を計画している。 久野 託靖（病害虫防除所）

表 ピーマン白絹病に対するトリコデルマ菌の防除効果

区	トリコデルマ菌の処理時期(月/日)				発病株率・%		
	6/8	6/18	6/28	7/5	8月9日	8月20日	8月30日
①	○	○			0	28.0 (39)	36.0 (44)
②		○	○		0	8.0 (83)	18.0 (72)
③			○	○	4	20.0 (57)	36.0 (44)
④		無	処	理	6	46.0 (—)	64.0 (—)

注) () 内は防除価